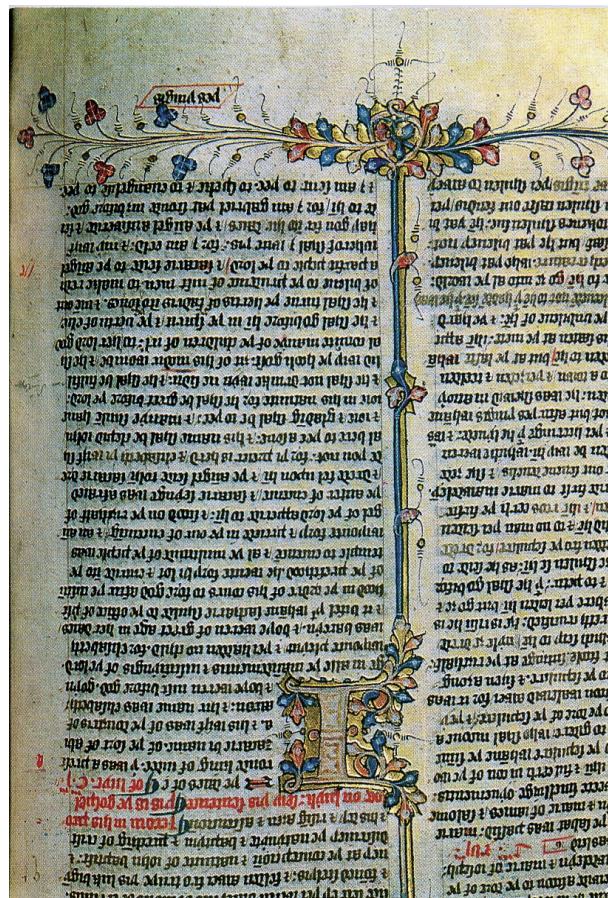


聖書



* 和田敏英収集史料386(14の13)④「絵葉書」(ヘレフォード大聖堂
＜図書館・サイダー聖書＞)

解説

キリスト教の聖書は、イスラエルの民と神との契約を記した旧約聖書と、主としてキリストとその弟子たちの活動を綴った新約聖書から構成されています。

聖書の位置付けは教派によって異なっています。たとえば、カトリック教会では聖書は聖伝と並列するものですが、正教会においては、聖書は聖伝の一部と位置づけられています。また、プロテスタントにおいては、聖書のみが重要な教理とされています。

なお、聖書はかつては一部の聖職者だけのものでしたが、15世紀半ばにグーテンベルクが活版印刷による聖書を出版して以降は、一般にも広く普及しました。また、翻訳も盛んに行われ、聖書は全部または一部が世界3,200以上の言語に翻訳されています(2017年現在)。発行部数には諸説ありますが、世界一発行されている本としてギネスブックに登録されています。

写真は、英国のヘレフォード大聖堂図書館に伝わる「サイダー」聖書です。同国の神学者、翻訳者であり、宗教改革の先駆者と評価されるウィクリフ(?～1384)によって翻訳された「新約聖書」のルカによる福音書の冒頭部分で、酒という意味で「サイダー」という言葉が使われています。

* 当館蔵の「新約全書」(木梨家文書669・670)は、明治期に刊行された小型版の新約聖書です。